



伝える・知る・やってみるの伝えるファンディング(伝え合う場ニヨシタ)

平野邸葉山は あなたの素敵な体験が創れる施設です。  
その形になるまでの件物語 どうぞ読んで下さい!

101年の歴史を紡ぐ西島眼鏡店さんとの出会いは、2014年のことでした。  
以来、私(タツシ注:あまさん)はもちろん、主人、母と、メガネをかけている家族全員で  
お世話になっています。

ご存じのとおり、西島眼鏡店の二階(通称「音室」)には大正時代から昭和初期に  
かけての商売道具や、当時の店舗の写真が展示して  
あります。それらを眺めていると、店と街は互いに  
支え合い、時代の流れの中で発展してゆくことを感じ、  
またそれはちょうど私の祖父母や伯母たちの世代で、  
懐かしさと親近感を抱きます。そして101年もの長き  
に渡り、虎ノ門の地にお店を構えてきたことに  
感動するのです。



くつづく  
も良し!

さて、西島眼鏡店さんが100周年へ向けて  
邁進しているころ、我家では母の実家をどのように  
するかという問題が浮上しました。

母が生まれ育った家は、材木商だった祖父が1936年(昭和11年)に樺太から葉山に  
移り住んで建てたもの。いわゆる古民家ですが、祖父母が亡くなったあとは、伯母の一人が  
住んでいました。この伯母は80代になっても元気で、葉山から有楽町まで毎月、大好きな宝塚  
歌劇を観に行くほどでした。けれども90歳まであと3ヵ月というところで世を去ってしまいます。

自分がいなくなった後は、私たち親族か、でなければ地域の人たちに家を使ってもら  
いたいというのが、生前の伯母の希望でした。



会議やイベント  
も出来ます!

けれども引っ越すのは大変ですし、地域に  
開放するとしても、そのままの形では使えま  
せん。かといって空き家にしておいたら、管理  
の手間や経費がかかるだけの「負動産にな  
ってしまいます。更地にして処分するのが  
一番ラクなのですが、自由に処分できない  
事情もありました。

裏面へつづく →